

— 広 告 —

KIT
キャンパス
レポート
文：出島二郎
マーケティングプランナー



仲地 駿人 (なかし たかひと)
金沢工業大学大学院工学研究科
情報工学専攻
博士前期課程一年
沖縄県立浦添高等学校出身

入学後、プログラミングの 楽しいことを発見しました。

パソコン少年がプログラミングに興味を持つまでは、紆余曲折があった。浪人後、進路を金沢工大にしぼったのは、学生が主体的に活躍できる大学であることで、予備校の先生の勧めもあった。プログラミングがおもしろくて仕方がないという仲地さんと、関連資料を前にして取材は始まった。

「施設では、二十四時間使える

自習室がいい。週に四、五回、八時ころまで行っていました。長田研究室を選んだのは、人工知能の深層学習というのが流行りだしたところで、新しい技術を勉強したいと思っただけ。学部生が十四人、院生三人のうち一人は後期課程です。長田先生は、他の教授に比べたら厳しいかなという感じはしますが、それが逆に面倒見がいい

ところだと思っんですよ。」

指導教授の長田茂美先生の専門は、パターン認識・理解、コンピュータビジョン、ニューラルネットワーク、ロボティクスなど幅広い。かつ、論文・著書に加えて各種受賞も多い。モットーは学生とともに「よく学び、よく遊べ」。

「CTFというセキュリティのイベントがあり、その初心者向けの勉強会に出てから、どんどんやっている感じです。サイバー攻撃に対しては、いちごっここの面もありますが、それをなくすことが最終的な目標です。『セックハック365』は集合イベントと遠隔での研究・開発実習という一年間のプログラム。卒業研究(深層学習を用いた侵入検知システム)との両立は大変でしたけれど。」

仲地さんは昨年度、国の若手セキユリテイエンジニア育成プログラム「セックハック365」に参加し、筑波大の学生とチームを組

み、「判定くん」というシステムを開発。参加者四十七人の中で優秀修了者に認定された。関連資料は、そのとき使用したものであった。

「ぼくは研究職より開発職に向いていると思うので、民間企業への開発部門に就職したい。そのような仕事は多いでしょうから。沖縄にも関連企業があれば考えようかなど。この分野は若い方が吸収が早く、いいと思われるかもしれませんが、経験を積むことは大事です。自ら考え行動する技術者でなければ通用しませんからね。」

仲地さんは冷静だ。きちんと将来を見据えている。「ほとんどパソコンの前に座っていますね」というけれど、社会の動向は注視しているのだ。インターンシップ、学会発表、いずれも入念な計画を立てて踏み出すところであった。

金沢工業大学

石川県野々市市扇が丘五七一
電話番号 〇七六二四八二〇〇